

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401780
法人名	有限会社 くらはら
事業所名	グループホーム あざみの里
所在地	〒859-1505 長崎県南島原市深江町戊3124番地3 (電話) 0957-65-1717

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1F		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年4月2日

【情報提供票より】(H21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造つくり		
	1階 建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	8 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	66 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院・上田歯科医院
---------	-------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

雲仙岳から降りた南島原市の山の中腹に設立されたグループホームである。当グループホームは2ユニットで、敷地は同じだが上下に単独ユニットとして設立されている。すぐ近くに小学校があり、中学校の職場体験で知り合いになった学生と入居者は、学校の行き帰りや設立記念行事に毎年参加することで触れ合いが続いている。職場体験で顔なじみになった中学生が、卒業式が終わると真っ先に当ホームに来てくれて入居者と喜びを分かち合う姿が、このグループホームがいかに地域密接型のホームであるかを物語っている。今後の展開を期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題の中で、評価の意義の理解はされているが、改善計画シートを作成されていないため、具体的取組が把握しにくい。改善計画シートの作成が望まれる。運営推進会議の参加者の明記はされていたが、会議の報告内容が入居者の状況報告に重点を置かれ、参加者の発言内容を始め会議の内容が記録されていない。議事録の見直しによる更なる会議の活用に期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員に配布し、2週間で提出後管理者がまとめられた。評価の意義は理解されており、介護の振り返りをする機会と捉えられている。改善計画シートが作成されることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回運営推進会議を開催されている。行事予定や入居者の生活状況などを報告されている。参加者の質疑応答はノートにのみ記入されて、「運営推進会議を活かした取り組み」としての内容を取り上げられることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族との信頼関係を今以上に良くするために、他の相談窓口があることもその都度伝えられているが、家族は、要望や意見を意見箱にも、第三者機関にも相談されないのが現状である。事業所としてはいつでも対応できるような体制は整えられている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入している。地区の清掃活動や地域行事には必ず参加されている。地区小中学校との交流も頻繁で、特に小学校は近所にあるため小学生が立ち寄り入居者との顔見知りの関係が築かれている。又、学校行事に招かれることも多く、毎年行われる当施設の「開設祭」では地域ぐるみで楽しんでいる。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「時間をかけて見守り、声かけをして付き添う・拘束のない介護・個人生活の継続」を掲げられている。経営者が地元出身で地域住民との繋がりが元々あり、理念の中に「地域密着型という文言」を入れるまでもなく実践されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内各所に理念が掲げられている。職員全員が理念を理解し介護に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入しており、回覧板がまわってくる。地区の清掃活動や地域行事には必ず参加されている。地区小中学校との交流も盛んで小学校は近所でもあり、学校行事に招かれることも多い。当施設の開設祭を毎年行い地域ぐるみで楽しまれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は全職員に配布し2週間を期限として提出してもらい管理者がまとめられた。自己評価・外部評価の意義は職員全員で理解しており、介護の振り返りをする機会と捉えられている。今回は改善計画シートの作成がされておらず、改善点が分かりにくい。	○	改善計画シートを作成されると、達成までのプロセスが介護サービス向上につながりやすいため、改善計画シートの活用を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議資料が行事予定や入居者の入院状況と退院後の詳細な回復状況の報告になっており、協議事案、参加者との質疑応答など会議の内容が見えにくい。	○	次回から運営推進会議における質疑応答を始め参加者の貴重な意見、助言を記録に取られ運営に反映されることに期待したい。

グループホーム あざみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	島原地域広域市町村圏組合において、当地域のグループホーム以外の福祉施設も含んだ会合に参加し地域の情報収集の必要性を認識されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族宛に送付する請求書と共に、本人の生活状況の報告をしている。個別に預かり金があり、出納簿、領収書を開示し追加の預かり金は複数の職員で確認するなど慎重に扱われている。遠方の家族には出納簿などコピーして請求書送付時に同封されている。年3回グループホーム便りを出している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問された時は必ず声をかけ要望がないか聞いているが殆どない状態であり、意見箱を設置されているが投函は少ない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や管理者の交代は殆どない。新規採用においては、入居者へのダメージを最小限度にするように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回開催されるグループホーム連絡協議会の研修会に参加している。外部研修も参加できる機会をつくるよう、勤務体制を柔軟に対応し、配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修会や会議に参加している。他のグループホームの職員同士の交流もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が納得した上で入居されるためには、家族と共に見学や体験入居を利用して環境に馴染まれるように支援をしている。病院からの紹介で入居が決まるときは、病院に向いて病院の情報も参考にされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>支援する側される側に関わらず、入居者が職員を労わる言葉が自然と交わされている。個別の生活歴や癖を職員は理解しており、意向に沿う支援をしている。ホーム対抗の風船バレー大会において入居者、職員一体になって勝敗に一喜一憂楽しんでおられる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉にできない事を、入居者の表情や全身状態を細かく観察して把握するように努力している。夜勤時や入浴時に職員がゆっくり話を聞くなどしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>記録は基本情報から生活支援まで細かく分析されており、本人にとってもっとも優先すべき支援を抽出し介護計画を立てられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回モニタリングを行い、継続できる方と、介護上の問題が生じた場合は現状に即した見直しを行っている。</p>		

グループホーム あざみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣住民が自由に行き来できるような雰囲気作りを心がけている。病院受診は職員が付き添い支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を重視されており、受診に際しては職員が同伴し医師との綿密な関係を保たれている。なお他科受診が必要な時は家族対応をしてもらい、情報の共有をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と本人の意向を尊重し、終末期のあり方について話し合い、かかりつけ医師とも話し合うなど方針の共有をされている。	○	重度化や終末期についての話し合いは行われているが、終末期における入院先の確保などあらゆる場面を想定した「看取りの指針」を職員を交えて話し合い、文章化されることが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で、個人のプライドを傷つけることがないように配慮している。入居者の性格や状態に合わせて言葉を選んで対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	このグループホームの理念の中に「個人生活の継続」がある。その理念が守られるように本人本意の生活の維持を考慮して介護されており、本人の希望に添うような支援をされている。		

グループホーム あざみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業に本人の力が発揮できる方は、準備から後片付けまで職員と共にされている。透析食の方は体力が低下されており食事中にむせて吐かれることもあり、職員で検討され別テーブルを用意して食事をしてもらおうと、本人も違和感なく落ち着いて食べられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	新館と本館が週3回入浴日を決めて支援されているが、本人の意向に沿うように時間や曜日を変えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や楽しみを活かして、カラオケや風船バレーをしたり、書道などができる方には理念や標語を書いてもらうなど、楽しみごとや能力を活かす支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が買い物や他の入居者の薬を取りに行く際には外出願望がある入居者をお誘いし外出の機会を作っている。外出時は他の入居者にも声をかけて日常的に外出を支援されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠しない。センサーなども設置はなく外出傾向がある入居者への所在確認など見守りが行われている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年2回消防署立会いで避難誘導訓練や消火器の使い方など指導を受けている。自然災害、特に島原地域は活火山があり大きな被害を受けられている。	○	非常持ち出し品としての情報、記録物のファイリングの工夫、災害時の備蓄に関して今後職員を含め全員で検討し取組まれることを期待したい。

グループホーム あざみの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	人工透析治療を受けている入居者がおられ、水分制限や食事制限がかかりつけ病院の栄養士から指導を受けて料理を作られる。他の入居者は本人に応じた支援をされている。一日の水分量は大まかな目安(1,500cc)をチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新館と本館とも天井が高く明るく清潔な空間で、季節を感じさせる雛飾りが置いてある。ゆったりと外気浴ができるウッドデッキなど広々とした共用空間作りがされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローカーか畳の部屋が選べるように用意されている。室内は仏壇やテレビ・鏡台などこだわりのある物を持ち込み寛いだ空間がもたらされている。		